

平成 27 年度

# 北海道高等学校教育研究大会教科別集会

## 情 報 部 会

北海道札幌北高等学校 平成 27 年 1 月 8 日（金）

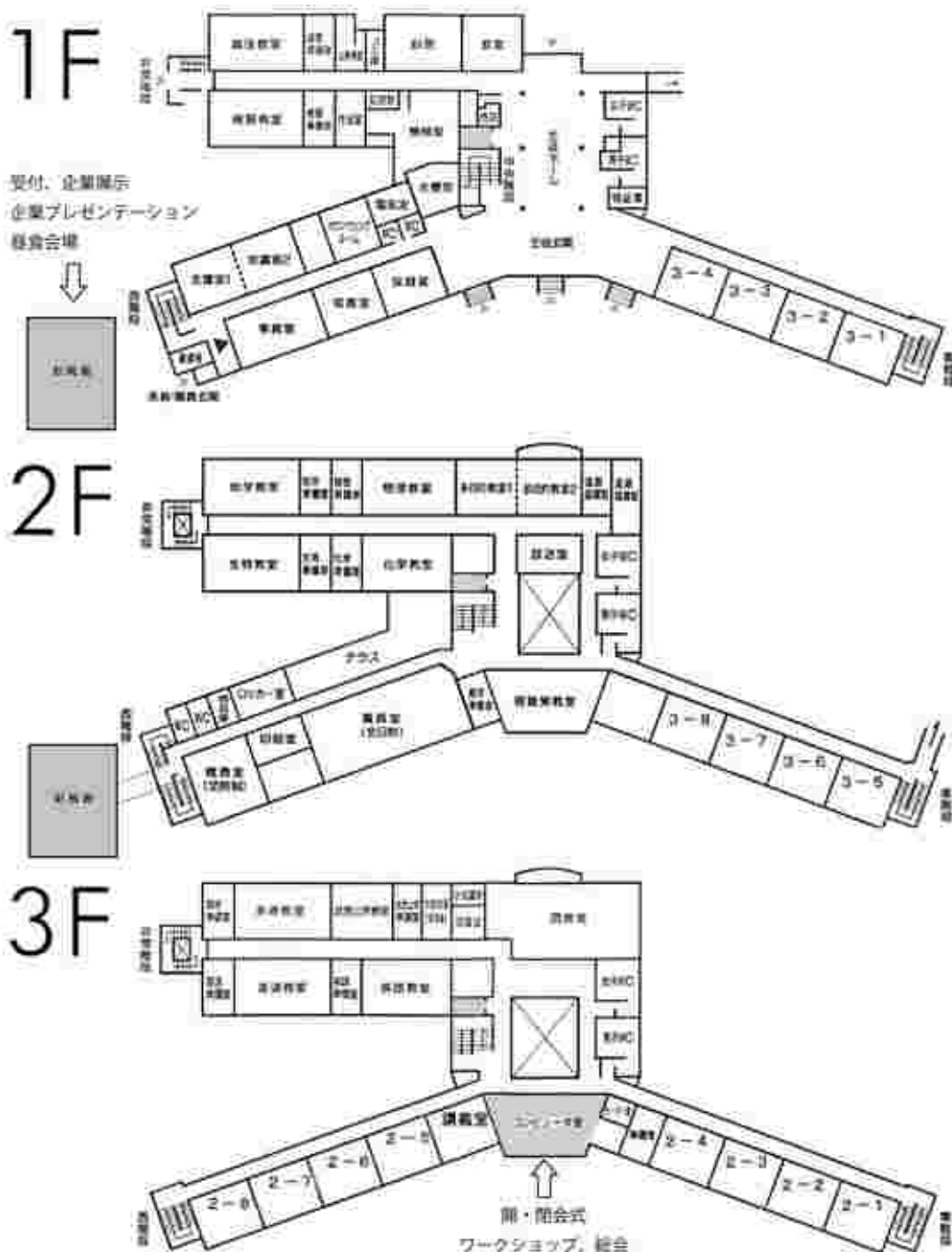
1	日程・時程	1
2	会場平面図	1
3	企業展示・企業プレゼンテーション進行表	2
4	総会	
	(4-0) 総会次第	3
	(4-1-1) 平成 26 年度 一般会計収支決算	4
	(4-1-2) 平成 26 年度 特別会計収支決算	5
	(4-1-3) 平成 26 年度 積立会計収支決算	6
	(4-2-1) 平成 27 年度 役員構成	7
	(4-2-2) 平成 27 年度 事務局業務一覧	
	(4-3-1) 研究紀要	8
	(4-3-2) キャラバン研究会	
	(4-3-3) 高教研情報部会アンケート集計結果報告	9
	(4-3-4) 全国情報教育研究大会参加報告	13
	(4-4-1) 平成 27 年度 一般会計予算	15
	(4-4-2) 平成 27 年度 特別会計予算	
	(4-4-3) 平成 27 年度 積立会計予算	
	(4-4-4) 平成 27 年度 一般会計中間報告	16
	(4-4-5) 平成 27 年度 特別会計中間報告	
	(4-4-6) 平成 27 年度 積立会計中間報告	
	(4-5) 平成 28 年度の研究テーマ	17
	(4-6-1) 研究紀要	19
	(4-6-2) キャラバン研究会	
	(4-6-3) 高教研情報部会アンケート	
	(4-6-4) 全国情報教育研究大会参加派遣	
	(4-7-1) 平成 28 年度 一般会計予算案	20
	(4-7-2) 平成 28 年度 特別会計予算案	
	(4-7-3) 平成 28 年度 積立会計予算案	
5	その他	
	(5-1) 北海道高等学校教育研究会情報部会規約	22
	(5-2) 参加者名簿	24
	(5-3) 懇親会のご案内	25
6	アンケート用紙	26

(ご記入のうえ、閉会式後に切り取ってご提出ください)

# 1 日程・時程

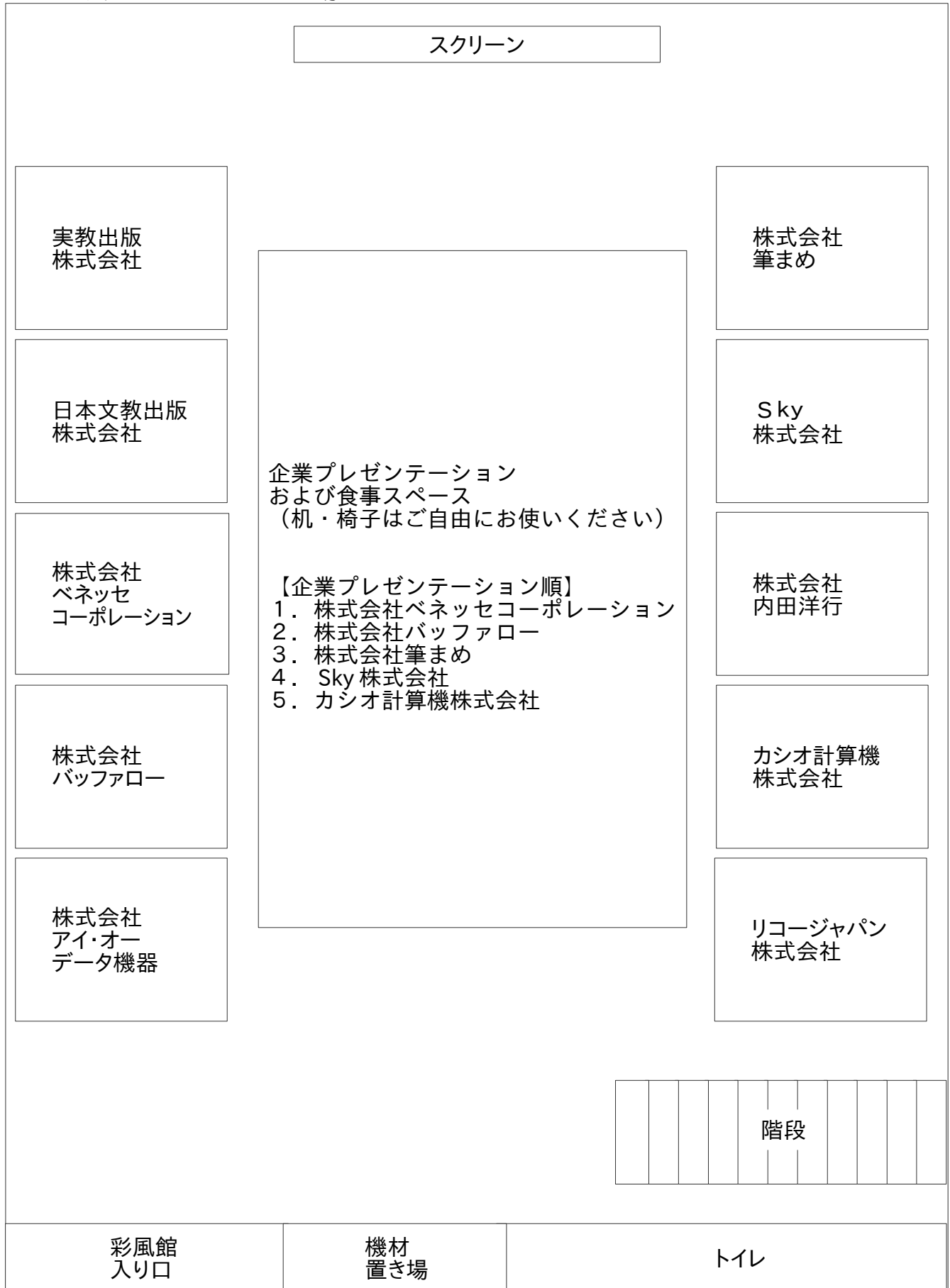
8:30~9:00	受付
9:00~12:10	ワークショップ
12:10~12:30	昼食・休憩・企業展示
12:30~13:50	企業プレゼンテーション・企業展示
13:50~15:30	ワークショップ
15:30~16:00	総会・閉会式

# 2 会場平面図



### 3 企業展示・企業プレゼンテーション進行表

#### 彩風館1階 会場図



## 4 総会

---

### 4-0 総会次第

#### \*報告事項

- 1 平成26年度 収支決算
  - ・平成26年度 収支決算報告（一般・特別・積立）
  - ・平成26年度 会計監査報告（一般・特別・積立）
- 2 平成27年度 役員構成
  - ・役員構成
  - ・役員・事務局の業務
- 3 平成27年度 事業報告
  - ・研究紀要
  - ・キャラバン研究会
  - ・高教研情報部会アンケート集計結果報告
  - ・全国情報研究大会参加報告
- 4 平成27年度 会計執行状況

#### \*審議事項

- 5 平成28年度 研究テーマ
- 6 平成28年度 事業案
  - ・研究紀要
  - ・キャラバン研究会
  - ・高教研情報部会アンケート
  - ・全国情報研究大会参加派遣
- 7 平成28年度 予算案（一般・特別・積立）

#### \*その他

- 8 その他

4-1-1 平成26年度 一般会計収支決算

(様式 款一ア三)

平成26年度 会計収支決算書 (研究調査費)

平成27年1月22日

北海道高等学校教育研究会 札幌分会

収入の部

科目	予算額	決算額	増減 (△)	備 考
繰越金	250,000	302,769	52,769	
本部交付金	228,430	146,970	△81,460	
雑収入	0	45	45	利息
合 計	478,430	449,784	△28,646	

支出の部

科目	予算額	決算額	増減 (△)	備 考
講師旅費・謝金	165,000	81,410	△83,590	道内講師謝礼、交通費、飲食費
事業費	30,000	1,429	△28,571	コピー用紙代
会場費	0	0	0	札幌北高野田部
運営費	50,000	14,620	△35,380	役員昼食、飲み物等
研究調査費	100,000	99,339	△661	ノートパソコン
備品運搬費	30,000	0	△30,000	
事務通信費	10,000	2,840	△7,160	郵送料、振込手数料
備品購入費	25,000	0	△25,000	
予備費	68,430	0	△68,430	
合 計	478,430	199,638	△278,792	

(収入部)

¥449,784

(支出部)

¥199,638

(残高)

¥250,146 (平成27年度へ繰越)

平成26年度会計収支について、監査の結果、適正であることを認める。

平成27年1月22日

監査(監事)

今井 豊双



川村 敏人

※注

- ①収入・支出科目にない科目がありましたら適宜記してください。  
支出科目例一研究助成金、会議費、印刷費、消耗品費、通信費、予備費、運営費等。
- ②領収書(原本)などの証憑書は、各地区支部、各教科部会で保存してください。  
本部事務局から提示を求められたら提出してください。

4-1-2 平成26年度 特別会計収支決算

(様式 裁-7-3)

平成26年度 特別会計収支決算書

収入の部

北海道高等学校教育研究会 情報部会

目 目	予算額	決算額	増 減 ( △ )	備 考
繰 越 金	200,000	263,999	63,999	
企業広告協賛金	130,000	130,000	0	
雑 収 入	0	32,043	32,043	(SP)メモ、利息
合 計	330,000	426,042	96,042	

支出の部

科 目	予算額	決算額	増 減 ( △ )	備 考
運 営 費	80,000	35,685	△ 44,315	【札幌キャンパス】 ¥29,743 【岩内キャンパス】 ¥0 【旭川キャンパス】 ¥5,942
役 務 費	130,000	60,790	△ 69,210	【札幌キャンパス】 ¥18,010 【岩内キャンパス】 ¥10,930 【旭川キャンパス】 ¥31,850
積 立 会 計	100,000	100,000	0	
予 備 費	20,000	0	△ 20,000	
合 計	330,000	196,475	△ 133,525	

収入額 426,042      支出額 196,475      残高 229,567

[平成27年度へ繰越]

平成26年度会計収支について、監査の結果、適正であることを認める。

平成27年3月29日

監査(監事)

今井 豊章

川村 雅人



4-1-3 平成26年度 積立会計収支決算

平成26年度 積立会計収支決算書

収入の部 北海道高等学校教育研究会 情報部会

科 目	収 入 額	備 考
繰 越 金	58,640	
積 立 金	100,000	特別会計より
雑 収 入	0	
合 計	158,640	

支出の部

科 目	支 出 額	備 考
運 営 費	0	
役 務 費	0	
予 備 費	0	
合 計	0	

収入額                      支出額                      残高  
 158,640                      0                      =                      158,640

[平成27年度へ繰越]

平成26年度会計収支について、監査の結果、適正であることを認める。

平成27年3月29日

監査（監事）

今井 豊彦

川村 雅人



## 4-2-1 平成27年度 役員構成

### 平成27年度 役員構成

	役員名	氏名	学校名	年間担当
01	部会長	毛内 顕史	北海道平取高等学校	
02	副部会長	佐藤 昌弘	北海道札幌新川高等学校	
03	〃	高橋 一矢	北海道札幌北高等学校	
04	監事	今井 豊章	札幌大谷高等学校	監査
05	〃	川村 雅人	北海道札幌あすかぜ高等学校	監査
06	幹事	池田 弘樹	北海道滝川高等学校	授業レシピ
07	〃	梅田 充	北海道札幌英藍高等学校	会計、企業展示
08	〃	奥村 稔	北海道札幌北高等学校	ワークショップ、サーバ管理
09	〃	鎌田 亮樹	旭川藤女子高等学校	ワークショップ、キャラバン
10	〃	佐々木 寛	北海道小樽潮陵高等学校	情報部会アンケート
11	〃	津端 公彦	北海道倶知安高等学校	キャラバン
12	〃	鶴間 伸一	北海道札幌英藍高等学校	授業レシピ、キャラバン
13	〃	古澤 正三	札幌北斗高等学校	キャラバン
14	〃	古屋 順一	北海道札幌北陵高等学校	企業展示
15	〃	前田健太郎	北海道帯広緑陽高等学校	キャラバン
16	事務担当	杉本 式史	北海道札幌新川高等学校	運営・渉外 基調講演 研究紀要(募集)

## 4-2-2 平成27年度 事務局業務一覧

### 平成27年度 事務局業務一覧

No.	業務内容	アクション	期限・期日	備考
1	部会長・事務担当者	本部に報告	平成27年4月6日(月)	平成27年度開始
2	教科事務担当者会議	会議	5月11日(月)	ホテルライフオート札幌
3	教科部会費振込先	本部に報告	5月28日(木)	
4	情報部会役員名簿	本部に報告	5月28日(木)	
5	第1回役員会	会議	6月10日(水)	札幌北高校(事務局担当校)
6	教科別テーマ・会場	本部に報告	6月12日(金)	
7	教科部会会員名簿	本部から送付	7月15日(水)	7月15日現在42名
8	教科研究事業費	本部から連絡	7月15日(水)	会員人数×200円だが、200人以下なので40,000円(12月振込)
9	会報第103号	会報	7月17日(金)	研究大会・研究紀要案内、各種名簿、事業計画
10	第26回キャラバン研究会in札幌	研究会	8月4日(火)～5日(水)	27年度第1回 札幌北高校
11	教科部会研究紀要執筆者	本部に報告	9月2日(水)	執筆者なし
12	講師派遣依頼状・委嘱状送先	本部に報告	9月24日(木)	基調講演を実施しないため講師は依頼しない
13	研究大会案内原稿	本部に報告	9月24日(木)	研究大会案内(11月発行)に掲載
14	教科別集會司会者	本部に報告	10月8日(木)	司会(会員であること)
15	教科別集會諸係分担	本部に報告	10月8日(木)	進行・会場・受付・会計・接待・放送
16	研究大会要項	本部に報告	10月8日(木)	テーマ・日程・講演・助言・運営・司会・記録
17	研究発表者及び発表題	本部に報告	10月8日(木)	ワークショップによる運営を報告
18	研究発表者の旅費計算書	本部に報告	10月8日(木)	旅費請求がない場合は不要
19	第27回キャラバン研究会	研究会	10月30日(金)	22年度第2回 静内農業高校
20	教科部会運営会議	会議	11月12日(木)	札幌旭ヶ丘高校
21	第28回キャラバン研究会	研究会	11月13日(金)	27年度第3回 小樽桜陽高校
22	会員追加登録	各学校から本部	11月16日(月)～12月1日(火)	以降、当日受付
23	第2回役員会	会議	11月26日(木)	札幌北高校(教科別研究集會会場校)
24	大会参加者名簿	本部から送付	12月16日(水)	12月16日現在42名
25	研究会諸費	本部から振込	12月16日(水)	会場費・昼食費・旅費・謝金、教科研究事業費追加分
26	第53回全体会	研究会	平成28年1月7日(木)	高教研第1日目 ニトリ文化センター
27	第15回情報科学研究集會	研究会	1月8日(金)	高教研第2日目 札幌北高校
28	情報部会集會実施(内容)	本部に報告	2月1日(月)	
29	(下記の2書類のための)鑑	本部に報告	2月1日(月)	
30	教科部会活動報告	本部に報告	2月1日(月)	会報第104号に掲載
31	教科部会会計収支決算	本部に報告	2月1日(月)	会計監査
32	会報第104号	会報	3月15日(火)	研究大会・地区支部活動の報告
33	研究紀要第53号	研究紀要	3月15日(火)	



#### 4-3-1 研究紀要

例年通り、研究紀要への執筆者を choice ウェブページおよび choice メーリングリストを通して募りましたが、今年度は執筆の希望はありませんでした。

来年度も執筆の募集を行います。日頃の研究の成果を研究紀要としてまとめてみませんか。執筆を希望される方は事務局杉本(札幌新川高等学校)までご連絡ください。

#### 4-3-2 キャラバン研究会

キャラバン研究会は、他教科と比べて歴史の浅い情報科が、積み重ねた実践を互いに共有し合うことで、生徒の学習意欲を高めながら全道各地で質の高い教育活動ができることを目指し、札幌圏を離れた会場で実務的な研修を行うものです。

学校事情や移動距離などにより1月の高教研情報部会の研究集会に参加できない先生方や、都市近郊から離れた土地で情報科を一人で担当して悩みを抱えている先生方などが、少しでも負担を感じることなく研修に参加する機会を設けるために始まりました。

キャラバン研究会は、今までに23回の開催を経て、様々なフィードバックを得て少しずつ進化し続けています。教育実践の発表だけでなく、ワークショップや懇親会を通じて、多くの仲間達との出会いの場としても大きな位置を占めるようになってきました。これからも各地の学校を会場としてお借りして、より多くの先生方と交流できる機会を持ちたいと願っております。

キャラバン研究会は、皆様からのご要望があれば地域の研究会と共同開催させていただくことも、単独開催させていただくことも可能です。全道各地を巡回することも目標の一つとしています。学校事情で1月の研究大会に参加が難しい地域での研究会開催や、地区の研究会の活性化にもお役に立てると思います。

##### キャラバン研究会 昨年度までの実績

	A地区 石狩・空知・後志	B地区 渡島・桧山 胆振・日高	C地区 上川・留萌・宗谷	D地区 オホーツク・十勝 釧路・根室
平成 18(2006)年度		01 伊達 (09月16日)		
平成 19(2007)年度	02 倶知安 (10月27日) 25名		03 旭川藤 (2月23日) 22名	
平成 20(2008)年度		04 函館西 (10月18日) 17名		05 帯広三条 (10月25日) 26名
平成 21(2009)年度	06 岩見沢緑陵 (8月6日,7日) 40名		08 旭川藤 (2月13日) 13名	07 釧路江南 (11月13日) 31名
平成 22(2010)年度	09 岩見沢緑陵 (8月5日,6日) 21名			10 紋別 (10月16日) 17名
平成 23(2011)年度	11 岩見沢緑陵 (8月5日,6日) 22名 13 小樽工業 (11月21日) 19名			12 音更 (10月28日) 11名
平成 24(2012)年度	14 岩見沢緑陵 (8月7日,8日) 17 小樽工業 (11月22日) 20名	15 函館西 (10月6日) 12名 16 室蘭栄 (10月12日) 22名		
平成 25(2013)年度	18 札幌北 (8月7日,8日)29名 19 滝川 (11月8日)17名 20 岩内 (11月14日)11名		21 旭川藤 (2月8日) 12名	
平成 26(2014)年度	22 札幌北 (8月4日,5日)20名 23 岩内 (11月12日) 20名		25 旭川藤(2月7日)	24 阿寒(12月18日) *悪天候のため中止

##### 平成 27(2015)年度の活動

- 第 26 回キャラバン研究会 in 札幌 (北海道札幌北高等学校 2015年8月6日、7日)
- 第 27 回キャラバン研究会 in 新ひだか (北海道静内農業高等学校 2015年10月30日)
- 第 28 回キャラバン研究会 in 小樽 (北海道小樽桜陽高等学校 2015年11月13日)

## 4-3-3 高教研情報部会アンケート集計結果報告

### 平成27年度高教研情報部会アンケート集計報告

この度は、お忙しい時期にもかかわらず、情報部会アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。アンケートの集計ができましたので、ご報告致します。なお、自由記述の回答に関しては、同じ内容のものはまとめ、()内に回答数を示してあります。

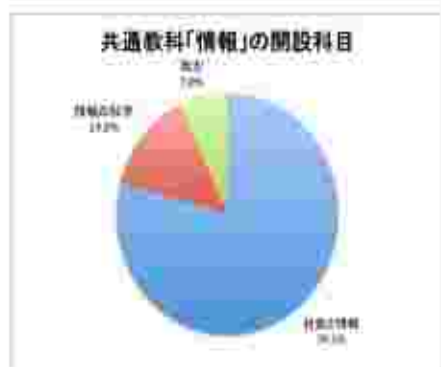
#### 調査内容

#### 1.学校名 2.管内について

全道各地 89 校、99 名の先生方からご回答をいただきました。

#### 3.共通教科「情報」の開設科目

開設科目	校数	割合
社会と情報	68	79.1%
情報の科学	12	14.0%
両方	6	7.0%
合計	86	100.0%



#### 4.上記3の開設学年

開設学年	校数	割合
1年	58	67.4%
2年	13	15.1%
3年	8	9.3%
1・2年	5	5.8%
2・3年	2	2.3%



#### 5.上記3以外の開設科目

- ・「SS情報」(情報の科学+基礎的な統計解析) 普通科
- ・「社会と情報」は1年次必修科目として開設、「情報の科学」は2,3年次の選択科目として開設
- ・「プログラミング入門」、「デジタル映像入門」を2,3年次の選択科目として開設
- ・学校設定科目として「情報実習A(2年or3年)」、「情報実習B(3年)」を開設
- ・ネットワークシステム(専門教科,2年選択科目),Webデザイン(学校設定,3年選択科目)
- ・「実用情報演習Ⅰ」、「実用情報演習Ⅱ(Ⅲ)」、情報演習Ⅰ
- ・「PC演習(特)(2年)」、「PC演習(Ⅱ)(3年)」
- ・その他「情報活用」、「情報演習」、「情報デザイン」、「課題研究」、「情報テクノロジー」、「情報の表現と管理」、「表現メディアの編集と表現」、「SG社会と情報」等

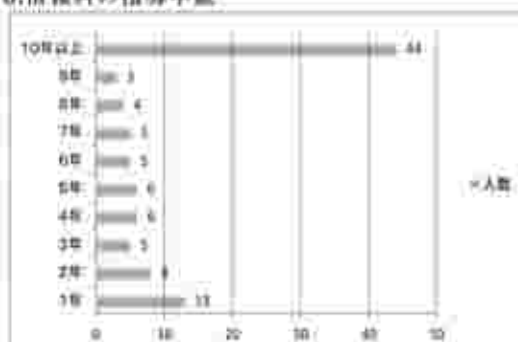
#### 6.職

職	人数
教諭	85
補任付き教諭	8
その他	1

#### 7.専任かどうか

専・兼任	人数
「情報」専任	30
他教科と兼任	68

#### 8.情報科の指導年数



### 9. 教員採用時の指導教科

教科	人数
国語	1
地理歴史	2
数学	21
理科	9
外国語	2
家庭	2
芸術	1
情報	1
商業	52
施設・情報	1
数学・情報	1
数学・商業	1
期限付き	8

### 10. 今後主とする指導教科

教科	人数
数学	9
理科	6
保健体育	1
外国語	1
家庭	2
芸術	1
情報	28
商業	37
数学・情報	2
数学・情報・商業	1
理科・情報	2
情報・商業	8

### 11. 高教研研究集会への参加状況

研究集会への参加	人数
(情報で)ほとんど毎年参加している	12
(情報以外の教科で)ほとんど毎年参加している	3
(情報で)ときどき参加している	15
(情報以外の教科で)ときどき参加している	10
めったに参加しない	22
参加したことがない	24

### 12. 高教研情報部会のメーリングリストについて

メーリングリスト	人数
すでに参加している	24
知っているが参加はしていない	23
メーリングリストの存在を知らなかった	22
現在は参加していないが、再来参加したいと思っている	10

### 13. 情報科授業の指導内容や特色

- ・ オフィスソフトの実習が中心 (20)
- ・ 情報モラル (19)
- ・ 検定試験を意識した指導 (10)
- ・ 基礎的な情報知識と技能の習得(7)
- ・ 教科書に準じた指導 (6)
- ・ プレゼンテーション(4)
- ・ コンピュータ操作の基本を重視(4)
- ・ Web ページの作成(3)
- ・ 総合学習とタイアップ (2)
- ・ ドリトルを使ったプログラミング教育(2)
- ・ 実用 IT 学校でネットショップを利用しての商品販売の授業
- ・ コンピュータミュージック、HP 作り、ワードでノートを作らせる、日常の生活と関連づけさせて学習させる等
- ・ 1年次はITで指導、3年次の実技ではプログラムを組んで3DCG の作品制作を取り入れている
- ・ 教科書には縛られない、ふなり自由度がある
- ・ 中級程度のアプリケーション操作を取り入れた経済等の演習
- ・ 教科書の内容をはずさずに独自の教材を作って授業を進めている
- ・ 技能審査科目の単位認定eラーニングの活用
- ・ 問題解決の重視、地域の課題の発見から解決策の提案まで行います

- ・ 専門教科の科目を2年次に教いている
- ・ 1年次:全生徒必修、3年次:情報系のクラスに「情報の表現と管理」を開設し、情報の特色を打ち出している
- ・ 総合学科系列の選択による商業科目、情報の専門科目につながるような実習指導と情報モラル等の基本的な情報を理論的に加贈する機会を1年次で行い、2年次以降選択の専門科目で発展的な内容を指導
- ・ 就職希望者の割合が多い実情をふまえ、生徒が希望する業界での情報端末の活用事例などを紹介しながら、授業内容と仕事がどのような場面で繋がるのかを意識させるような授業展開を心掛けている
- ・ ほぼ 100%実習、文書処理、表計算、画像処理、動画処理、HP 作成等
- ・ 教科書内容の理解については極力基本的な内容にとどめ、情報の特徴、デジタル表現、情報モラル、ネットワークの仕組みを中心に進めている
- ・ 新聞記事やネット上の記事を活用
- ・ 普通科は2年生に2単位ですが、理数科は「スーパーサイエンス・ハイスクール (SSH) 指定校」のため、研究的な授業単位に情報が含まれているので、数時間でエッセンスを教えて、実験結果の主とめなども他教科と協力してやっています。普通科も学校設定科目で、基本的な統計解析を教えたりしています

#### 14. 情報の授業を担当する上での悩み等

- ・機器の不足や老朽化等 PC 室環境の不備 (14)
- ・生徒の能力差、習熟度の差が大きいの (8)
- ・学校事情で望ましい時期に開設できない (5)
- ・基礎的学力不足の生徒への指導 (4)  
(PC に触れたことない、ローマ字がわからない等)
- ・授業時数が足りない (4)
- ・情報モラルの指導方法 (4)
- ・一人で生徒 40 人の指導をするのは難しい (4)
- ・コンピュータトラブルの対応 (3)
- ・他教科との兼任 (3)
- ・資格取得やアプリケーション操作を中心とした実技内容に偏ってしまう (2)
- ・フェルタリングによる規制の影響 (2)
- ・ティームティーチングの在り方 (2)
- ・履修時期をどうするか (2)
- ・情報交換、相談できる人がいない (2)
- ・免許外で指導しなければならない教員がいる (2)
- ・ソフトのバージョンが教科書と対応していない (2)
- ・評価方法 (2)
- ・技術進歩が速く教材研究が大変 (2)
- ・生徒が情報を学ぶモチベーションが低い (2)
- ・自分自身の技術、経験不足
- ・進学と実習のバランス
- ・サーバの管理
- ・他校との交流不足
- ・やってみようことはあるが、自分の知識、技術、PC 教室の環境などでなかなか実現できない
- ・センター試験に変わる新システムにどのように対応していけばよいのか

- ・検定試験を扱ってほしいという校内からの声
- ・教科書の質にもよるが、最低限身につけさせる事例は何か
- ・SNS 等で起こる生徒指導事故に対する我々の指導の在り方
- ・理論と実習内容の関連性をどのように持たせるか、理解度に関わってくるところなので指導が難しい
- ・内容の取捨選択
- ・本校の情報担当が私しかおらず、新任でもあるので他の学校のプロの先生はどんなカリキュラムを構成しているのか気になります
- ・同じ内容を複数の教員が教えるため、どこまでを共通内容にし、どこまで各教員独自の内容を許すか難しさが難しい
- ・教科書にある表面的な説明は可能でも、コアな部分に対する説明に不安がある
- ・1 校 1 名のことが多いので、雑務に陥りがちである。各教科代表からなる委員会などは問答無用で「家世委員」となり、会議に忙殺されがちである。
- ・情報モラル教育を行っていく上で、他教科の教員との認識の差 (個人情報取り扱い方等) が出てくることもある
- ・今後、初歩的なプログラミングの内容を指導する場合に自分自身では理解していない部分があるため不安である
- ・専門でないので、きちんとした指導ができない
- ・情報の科目が選択科目に入っている場合、進路希望で選択させるときに理由付けが難しい

#### 15. 研究会等で学んでみたい内容

- ・他校での授業の展開、実践例、シラバス等 (9)
- ・効果的な情報モラルの指導法 (7)
- ・プログラミング関連 (5)
- ・タブレットを利用した授業方法 (4)
- ・生徒が興味、関心を持って取り組む授業の実践例 (2)
- ・PC 教室や校内サーバの管理運営方法 (2)
- ・授業で扱えるコンテンツのアイディア
- ・検定指導の留意点など
- ・他教科との連携
- ・マルチメディアを効率よく利用した授業の例
- ・興味を引かせるための工夫や教材作りについて
- ・竹を活用した効果的な授業展開について

- ・SSS における様々なトラブルに対応する、もしくは未然防止するための教材や授業実践
- ・各学校での校務支援システムの対応
- ・あんまり最前線過ぎないものが良いです。あくまで授業に還元できるもので
- ・生徒の身近な事例から情報社会に適切に対応できる型模範育成のための教材研究
- ・生徒が「情報」の教科から価値あることを学んでいると思えるには、どのような工夫を他の先生がされているのか知りたい
- ・本州の高等学校で実施している研究会の内容
- ・情報を担当する教諭として身につけるべき教養
- ・ICT の構築

- ・授業で扱う具体例などの研究
- ・インターネットやSNSの怖さを知ることができる授業案や各校における授業の実施状況、内容を学びたい
- ・問題解決学習の事例やICTを活用した授業展開の事例
- ・最近研究会などで様々な教材を紹介いただき、活用しています。アラカルトみたいにもっといろいろと教えてもらえるとうれしいです
- ・グループワークで授業実践している例などを聞いてみたい

- ・実際に授業で利用しているデジタル教材の情報提供などを知りたい
- ・最近の情報に関する新しい動きやアプリケーションについて
- ・プロジェクションマッピングとかやってみたいし、やらせてみたいと思っています
- ・IPやデータベースなど

## 16. その他・ご意見等

- ・情報科の教員はこの学校でも、SE代わりに使われ、それに授業や分掌、担任まで持って、一人何役もやっているのがほとんどだと思うので、高教研から退会要望を出してほしい
- ・今後も、教科「情報」の教員配置は各学校にないものなのか、免許外の教員が多数教えている現状は、生徒にとって不利益ではないだろうか
- ・両方とも情報の免許を所持している教諭によるTTができる体制をとることを義務づける必要がある。学校に情報担当が1人しかいないため、本来の教科を教えることができない。適正な人員配置が求められる

- ・情報部会が無意味だとは思わないが、参加したいとは思えない。リソースを学んだところで、授業改善に直接つながるのでしょうか。失礼な言い方をすれば、情報部会は私たちのような学校から見るとパソコンオタクの先生方の寄り合いのイメージだ。もっと授業実践についての情報交換がしたい。悩んでいる先生はいないのでしょうか(という話すら通じない感があります)
- ・教師が単独で授業を行っているか、あるいはTTで行っているか、他校での状況、パーセントを知りたいです

## 4-3-4 全国情報教育研究大会参加報告

### 第8回全国高等学校情報教育研究会参加報告

旭川藤女子高等学校 鎌田亮樹

2015年8月に、宮崎県で開催された全高情研（全国高等学校情報教育研究会）に参加した。また、分科会で発表する機会を得た。200名を超える高校教員、大学関係者、大学生や高校生の参加で会場は活気に包まれていた。



会場となった宮崎公立大学



開会式の様子

#### 1. 概要

##### ・全国高等学校情報教育研究会設立趣意

「全国の高等学校情報教育関係者が、情報に関する発表や研究協議を定期的に行うとともに、研究会のネットワークを全国に広げ、互いの情報交換を活発にし、交流を深めることで、よりよい情報教育を進める大きな機会を作る」

##### ・大会目的

「全国の情報教育関係者が一堂に会し、講演、研究発表、協議、情報交換等とおして、これからの教科「情報」の在り方及び課題解決の方策を探り、実践的な指導力の向上を図る。」

##### ・大会テーマ 「地域課題に向きあう情報教育 ～地方からの挑戦～」

##### ・大会日程 2015年8月10日（月）11:30～8月11日（火）12:40

##### ・大会会場 宮崎公立大学（宮崎県宮崎市船塚1丁目）

#### 2. 大会プログラム

8月10日（月）	8月11日（火）
総会	ポスターセッション
開会行事	講演 西野和典教授（九州工業大学）
ライトニングトーク	講評・講演 鹿野利春先生
分科会	閉会行事
教育懇親会	

### 3. 分科会

21名の参加があり、3系統の分科会で7回構成となった(3トラクタで7セッション)。見学者は大会冊子に記載されているタイムテーブルを確認し、セッションを自由に選択することができる。

**【発表ルール】**各発表者の持ち時間は25分。内訳はプレゼン発表20分、質疑応答の時間が5分。予備鈴が18分、本鈴が20分で鳴る仕組みとなっている。また、質疑応答の5分が経過したところで最後のベルが鳴る。発表が終わったところで、見学者が5分の休憩時間内に教室を移動。各教室は隣接していた。

(鎌田発表分)

分科会において「全校生徒にタブレット端末を配布してわかったこと～情報の授業をコンピュータールームから解放する可能性～」というテーマで発表を行った。「地方からの挑戦」というサブテーマが今回の大会テーマに付随していたので、地方の小さな女子校という立場でICTを活用した授業改善の報告や環境構築の失敗談、情報の授業をコンピュータールームから解放する可能性について語った。



大会冊子掲載写真は以下よりダウンロード可能。 <http://www.senkojoken.jp/0fmi/yazaki/subcom/>

(分科会前のスケジュール)

分科会発表申し込み	4月4日(土)～5月18日(月)	発表申込フォームに分科会発表テーマと要旨(概要)を200文字以内で入力。
分科会選考結果通知	5月24日(日)	
論文提出締切	6月30日(火)	A42枚の見開き。原稿横式あり。
発表	8月10日(月)	

### 4. ポスターセッション

大会2日目9:00から、36名が福利厚生棟にてポスターセッションを行った。北海道からは、小樽南陵高校・佐々木寛先生が「教育用プログラミング言語「ドリトル」を利用した授業の実践報告」というテーマでポスターセッションに参加。熱心に見学者に語りかける発表者から情報教育へのあつい情熱を感じることができた。



### 5. 今後の大会開催予定

2016年度は神奈川県で開催予定。第1回運営委員会が開催された。

年度	場所	備考
2016年度	神奈川県	2016年8月8日(月)～8月9日(火) 専修大学(生田キャンパス)神奈川県川崎市多摩区東三田2
2017年度	東京	
2018年度	未定	平成28年6月30日まで募集

#### 4-4-1 平成27年度 一般会計予算

##### (1) 収入の部

科目	平成26年度 予算額	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	250,000	302,769	250,000	0	
本部交付金	228,430	146,970	228,430	0	
雑収入	0	45	0	0	利息
合計	478,430	449,784	478,430	0	

##### (2) 支出の部

科目	平成26年度 予算額	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額	増減(△)	適用
講師旅費・謝金	165,000	81,410	180,000	15,000	謝礼・交通費
事業費	30,000	1,429	50,000	20,000	ワークショップ企画
会場費	0	0	0	0	札幌北高校彩風館
運営費	50,000	14,620	50,000	0	記録メディア等
研究調査費	100,000	99,339	50,000	△50,000	研究資料・書籍
備品運搬費	30,000	0	30,000	0	機材運搬
事務通信費	10,000	2,840	10,000	0	文書郵送費
備品購入費	25,000	0	25,000	0	機材購入
予備費	68,430	0	83,430	15,000	雑費
合計	478,430	199,638	478,430		

#### 4-4-2 平成27年度 特別会計予算

##### (1) 収入の部

科目	平成26年度 予算額	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	200,000	263,999	200,000	0	
企業広告協賛金	130,000	130,000	140,000	10,000	
雑収入	0	32,043	0	0	
合計	330,000	426,042	340,000	10,000	

##### (2) 支出の部

科目	平成26年度 予算額	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額	増減(△)	適用
運営費	80,000	35,685	80,000	0	
役務費	130,000	60,790	140,000	10,000	
積立会計	100,000	100,000	100,000	0	
予備費	20,000	0	20,000	0	
合計	330,000	196,475	340,000	10,000	

#### 4-4-3 平成27年度 積立会計予算

##### (1) 収入の部

科目	平成26年度 予算額	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	58,640	58,640	70,000	11,360	
特別会計より	100,000	100,000	100,000	0	
雑収入	0	0	0	0	
合計	158,640	158,640	170,000	11,360	



#### 4-4-4 平成27年度 一般会計中間報告

##### (1) 収入の部

科目	平成27年度 予算額	中間報告	増減(△)	適用
繰越金	250,000	250,146	146	
本部交付金	228,430	40,000	△188,430	調査研究費
雑収入	0	51	51	利息
合計	478,430	290,197	△188,233	

##### (2) 支出の部

科目	平成27年度 予算額	中間報告	残 額	適用
講師旅費・謝金	180,000	0	180,000	
事業費	50,000	0	50,000	
会場費	0	0	0	
運営費	50,000	1,400	48,600	役員会飲物代
研究調査費	50,000	0	50,000	
備品運搬費	30,000	0	30,000	
事務通信費	10,000	2,542	7,458	郵送料、振込手数料
備品購入費	25,000	0	25,000	
予備費	83,430	0	83,430	
合計	478,430	3,942	474,488	

#### 4-4-5 平成26年度 特別会計中間報告

##### (1) 収入の部

科目	平成27年度 予算額	中間報告	増減(△)	適用
繰越金	200,000	229,567	29,567	
企業広告協賛金	140,000	0	△140,000	
雑収入	0	0	0	
合計	340,000	229,567	△110,433	

##### (2) 支出の部

科目	平成27年度 予算額	中間報告	残 額	適用
運営費	80,000	25,329	54,671	フラットファイル,DVD-R 他
役務費	140,000	73,732	66,268	役員旅費
積立会計	100,000	100,000	0	
予備費	20,000	0	20,000	
合計	340,000	199,061	140,939	

#### 4-4-6 平成26年度 積立会計中間報告

##### (1) 収入の部

科目	平成27年度 予算額	中間報告	増減(△)	適用
繰越金	70,000	158,640	88,640	
特別会計より	100,000	100,000	0	
雑収入	0	0	0	
合計	170,000	258,640	88,640	

##### (2) 支出の部

科目	平成27年度 予算額	中間報告	残 額	適用
運営費	—	0	—	
役務費	—	106,230	—	高教研全国大会派遣旅費
事務通信費	—	486	—	振込手数料
予備費	—	0	—	
合計	170,000	106,716	63,284	

## 4-5 平成28年度の研究テーマ

### 平成28(2016)年度研究テーマ趣旨説明文

指導と評価の一体化とは、「計画・実践・評価という一連の教育活動」を繰り返しながら、生徒のよりよい成長を目指した指導を展開することをいいます。これは、指導という一連の教育活動は、その中でいつも評価を効果的に行いながらなされるべきであるということです。この指導の中にある計画とは、学習目標を設定し、それをどのような授業で達成するのかを立案することと考えてよいでしょう。つまり、計画の中には、目標設定と授業計画という二つの要素が含まれていることとなります。ここであらためて、指導と評価の一体化というときの指導を、次のような一連の教育活動の展開であると整理しておきましょう。

目標設定→授業計画→授業実践（形成的評価・授業評価）→評価（総括的評価・授業評価）

このような展開の中で指導と評価の一体化を目指すために、授業実践の場面ごとにどのように評価を行うことが効果的であるかを考えます。そしてさらに、この展開をスパイラルに向上させるためには、展開の始まりと終わりが強い関連性を持ちながら連続していることが必要です。このことから、展開の始まりである目標設定と、展開の授業実践段階から終わりまで継続して行われる評価とを、授業実践を仲立ちにして一体化させることが求められます。本稿では、この結果として導出された方策を、今年度の研究テーマとして提案することとします。

ここで評価に係る用語について、認識を共有しておきましょう。まず、形成的評価は、授業の中で生徒が自らを振り返る（リフレクション）ことで、自分の解釈や価値観を更新したり軌道修正したりすることを促します。ですから教師は、生徒の学習活動を深化するために、この適切な形成的評価を継続的に行わなければなりません。また、このことは、教師の側の授業設計、ないしは授業の実践に向けた改善改良の材料を提供します。ですから教師は、このようにして生徒を評価するときには必ず自ら行う授業についても、自分が掲げる目標と生徒の実際の活動との齟齬を捉えて解消するために、授業評価という観点を忘れてはならないでしょう。

次に、総括的評価とは言うまでもなく、指導、つまり学習活動を総括して、学習目標の到達度を測るものです。この後に述べる観点別評価を適用しても、達成度はなかなか客観的に測れるものではないかもしれません。しかし、少しでも客観的な方法としての観点別評価を重ねて行うことで、その客観性が担保されるまでそれを高めていくことは可能でしょう。このことについてはまた、別に研究テーマとする機会があることを期待しておきます。

さて、このような展開を実現するためにこれまでも、目標と評価を相互に緊密なものにすることを目指して、観点別評価の研究や実践がなされてきました。情報部会でも昨年度は、「生徒も先生も、みんなが幸せになれる評価の研究」として研究テーマを掲げ、確かな学習目標から授業づくりを通して、評価規準をどのように位置付けるかを考えてきました。

このテーマの元では、目標設定を受けて行われた授業実践において、その途中あるいはその結果に対して行う評価を主に考えてきたのだと思われます。しかし、このような始まりから終わりに向けた一方向だけの検討議論だけでは、これから目指そうとしている指導と評価の一体化や、指導の展開をスパイラルに向上させていくことは望むことができません。これまでの研究活動を足掛かりにして、今後どのように考えて何をテーマに据えるべきなのでしょう。

生徒の側から考えると、学習目標のもとに設定された妥当性のある評価規準によって、主体的な学習活動の中で適正に評価されることが学習への意欲に繋がります。ここでの、「妥当性」のある評価規準によって「適正に」評価するとは、どのようなことを指すのでしょうか。まず、評価規準の「妥当性」を判断するのは、教師でもあり生徒でもあります。評価というものは目標に

対して行うものであり、目標は始めから教師と生徒との間で共有されているべきものだから、共有して相互に納得できていれば、それは「妥当性」があるといえることができます。

次に、教師と生徒とが互いに、行われた評価の妥当性を判断するためには、その評価規準の客観性が担保されていることが必要です。現状では、その評価規準が観点別であることを一つの拠り所として、評価の「適正」を主張せざるを得ません。つまり、教師と生徒との間で最初から、学習目標と評価規準とを共有した上で観点別評価を行うこと、このことが生徒の意欲的な学習にとって重要であるといえるのでしょう。

観点別評価といっても、いわゆる四観点を杓子定規に考えて、それぞれの観点毎に評価規準として具体化していくことは一般的に難しい作業であると考えられます。なぜならば、指導と評価の「一体化」を目指す以上は、指導と評価の関係は卵と鶏のように、前後関係の中で語られるべきものではなく「相互関係」の中で捉えられるべきものだからです。そうした相互関係の風景は幸いにも、授業の中で日常的に目にすることができます。設定した目標に沿った評価規準を設定し授業を行ったとしても、想定外の生徒の反応が飛び出したり、それによって授業があらぬ方向に進んでみたりすることは、私たちは経験的によくあることだと知っています。

もちろん想定外の授業展開となる場合も含めて、評価規準は継続的に見直していくことが必要であり、そのことで評価規準も結果として授業も、よりよいものに更新され続けていくことが可能になります。そしてここでは同時に、設定した目標の妥当性も合わせて検証されることが求められます。結果として、授業の実践を通して目標と評価が相互に磨き合うことで指導全体の中に評価が一体化し、一連の授業展開の質が、そして学習指導の質がスパイラルな向上を見ることができるようでしょう。

最後に、「観点別評価」と「授業改善」の関係を確認しておきましょう。この両者の間には確かに、「観点別評価をするならば、授業は改善できる」というような因果関係はありません。しかし、指導と評価が一体化された場合だという前提の元では、相互関係は生まれます。ですから、その相互関係において、「観点別評価」と「授業改善」との間には有意の相関があるといえます。この意味において、「観点別評価をすることで授業改善できる」のは間違いなくいえるのだと思います。

以上の議論を踏まえてまして、平成 28 年度の研究テーマを提案します。

## **「観点別評価による授業改善」** (指導と評価の一体化を目指して)

## 4-6-1 研究紀要

情報部会では下記により、次年度に向けての研究紀要の執筆者を募集します。執筆は個人によるものでもグループによるものでもかまいません。日頃の研究の成果を発表する場としてご利用いただきたいと思っております。

### 平成27年度北海道高等学校教育研究会研究紀要執筆者の募集について

平成28年3月に発行される本研究会「研究紀要第53号」の教科部会「情報」の執筆者を募集します。募集する研究論文は、高教研の研究主題である、

「未来を担う人を育む北海道高等学校教育の創造」

に沿ったもので、以下の要件を満たしているものです。

(要件)

- ・執筆者は高教研の会員に限る。
- ・個人的でない内容である。
- ・単年度で完結した研究である。
- ・高校教育に関わる研究である。
- ・数年度のスパンにおいて、特定校・特定個人に偏らない。
- ・文字数は25,000文字以内(横25文字×1,000行)

個人もしくはグループで執筆を希望する会員は、研究紀要募集担当(札幌新川高校 杉本)にご連絡下さい。choice メーリングリストでも募集案内を流します。執筆に関しての質問もこちらで承ります。

執筆の希望者が複数出た場合は役員会で執筆者の選考を行います。

## 4-6-2 キャラバン研究会

他教科と比べて歴史の浅い情報科が、積み重ねた実践を互いに共有し合うことで、生徒の学習意欲を高めながら全道各地で質の高い教育活動ができることを目指し、今年度に引き続き、キャラバン研究会を実施します。次年度は、実施実績の少ない各地区管内での実施を努力目標とします。

キャラバン研究会の開催についてのお問い合わせは事務局(札幌新川高校 杉本)まで。

## 4-6-3 高教研情報部会アンケート

北海道内の情報科と担当する先生方が置かれている状況を把握・共有し、高教研情報部会としての活動をより有意義で質の高い先生方のニーズに合ったものにするために、次年度もアンケートを実施します。なお、前回のアンケートでいただいたご意見を基に、アンケート設問や結果の報告などについての検討・改善を加えます。

## 4-6-4 全国高等学校情報教育研究会全国大会参加派遣

北海道の情報科教育の質をより高いものにすることを目的として、高教研情報部会会員の、全国高等学校情報教育研究会全国大会への参加派遣を行います。

次年度も、派遣人数は原則1名とし、choiceウェブページ上およびchoiceメーリングリストで告知し、希望者を募ります。派遣者は高教研情報部会総会での報告義務があります。

平成28年度第9回全国高等学校情報教育研究会全国大会は8月8日(月)、9日(火)の2日間日程で神奈川県で開催されます。詳細は Web でご確認ください。

<http://www.zenkojoken.jp/09kanagawa/>

#### 4-7-1 平成28年度 一般会計予算案

##### (1) 収入の部

科目	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額	平成28年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	302,769	250,000	250,000	0	
本部交付金	146,970	228,430	228,430	0	
雑収入	45	0	0	0	
合計	449,784	478,430	478,430	0	

##### (2) 支出の部

科目	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額	平成28年度 予算額	増減(△)	適用
講師旅費・謝金	81,410	180,000	180,000	0	謝礼・交通費
事業費	1,429	50,000	50,000	0	ワークショップ企画
会場費	0	0	0	0	札幌北高校彩風館
運営費	14,620	50,000	50,000	0	記録メディア等
研究調査費	99,339	50,000	50,000	0	研究資料・書籍
備品運搬費	0	30,000	30,000	0	機材運搬
事務通信費	2,840	10,000	10,000	0	文書郵送費
備品購入費	0	25,000	25,000	0	機材購入
予備費	0	83,430	83,430	0	雑費
合計	199,638	478,430	478,430	0	

#### 4-7-2 平成27年度 特別会計予算案

##### (1) 収入の部

科目	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額	平成28年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	263,999	200,000	200,000	0	
企業広告協賛金	130,000	140,000	130,000	△10,000	
雑収入	32,043	0	0	0	
合計	426,042	340,000	330,000	0	

##### (2) 支出の部

科目	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額	平成28年度 予算額	増減(△)	適用
運営費	35,685	80,000	80,000	0	
役務費	60,790	140,000	130,000	△10,000	
積立会計	100,000	100,000	100,000	0	
予備費	0	20,000	20,000	0	
合計	196,475	340,000	330,000	△10,000	

#### 4-7-3 平成27年度 積立会計予算案

##### (1) 収入の部

科目	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額	平成28年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	58,640	70,000	150,000	80,000	
特別会計より	100,000	100,000	100,000	0	
雑収入	0	0	0	0	
合計	158,640	170,000	250,000	80,000	

MEMO

## 5 その他

### 5-1 北海道高等学校教育研究会 情報部会規約

#### 第1章 総 則

(名称)

第1条 本会は、北海道高等学校教育研究会情報部会と称する。

(目的)

第2条 本会は、北海道高等学校教育研究会の目的に準じ、共通教科ならびに専門教科「情報」の教育（以下、情報教育と称する）に関する事項を研究し、会員相互の研修と識見向上につとめ、情報教育の振興を図る。

(会員)

第3条 本会の会員は、北海道高等学校教育研究会の会員であつて、情報教育を研究する者、ならびに情報教育の趣旨を生かした教育活動を行おうとする者をもって構成する。

#### 第2章 事 業

(事業)

第4条 本会の目的を達成するため、情報教育に関する研究をとおして下記の事業（北海道高等学校教育研究会会則第4条による）を行なう。

- (1) 研究会の開催
- (2) 機関紙への寄稿
- (3) 講習会、講演会の開催
- (4) その他本会の目的達成に必要と認められる事業

#### 第3章 組 織

(役員と任務)

第5条 本会の役員と任務は、次の通りとする。

- (1) 部会長（1名 本会の運営を統括し、本部役員となる。）
- (2) 副部会長（2名 部会長を補佐し、部会長事故あるときは職務を代行する。）
- (3) 監事（2名 本会の業務及び会計を監査する。）
- (4) 幹事（若干名 本会の会務に参与する。）
- (5) 事務局長（1名 本会の事務を統括し、本部との連携を図る。）

(役員を選出と任期)

第6条 本会の役員を選出は、次のとおりとする。

- (1) 部会長は、北海道高等学校教育研究会情報部会加入の校長とする。
  - (2) 副部会長は、北海道高等学校教育研究会情報部会加入の校長、副校長または教頭とし、部会長が委嘱する。
  - (3) 監事は、本会会員から選出し、部会長が委嘱する。
  - (4) 幹事は、本会会員から選出し、部会長が委嘱する。
  - (5) 事務局長は、本会会員から選出し、部会長が委嘱する。
- 2 役員任期は1年とし、再任を妨げない。
  - 3 情報部会総会において、役員を報告する。

(事務局)

第7条 本会の事務局は、原則として幹事によって構成される。

2 必要に応じて、近隣の本会会員をその構成員とすることができる。

#### 第4章 会 議

(本部役員会)

第8条 本部の役員会（年3回）には、部会長と事務局長が情報部会を代表し出席する。

(役員会)

第9条 役員会は、部会長が召集し、次の事項を審議する。

- (1) 事業報告及び収支決算
  - (2) 監事による監査報告
  - (3) 事業計画及び、収支予算
  - (4) 役員を選出
  - (5) その他、必要とする事項
- 2 臨時役員会は、必要に応じて部会長が召集する。

(総会)

第10条 総会は、北海道高等学校教育研究大会の教科別集会において開催し、会の規約や業務、会計に関する事などについて審議する。

## 第5章 会 計

(経費)

第11条 本会の経費は、北海道高等学校教育研究会からの交付金、及びその他の収入による。

(書記・会計)

第12条 書記・会計に関する業務は、事務局員が担当する。

(会計年度)

第13条 本会の会計年度は、毎年4月1日より始まり翌年3月31日までとする。

## 第6章 その 他

(規約の改廃)

第14条 規約の改廃は、役員会で審議し、総会で承認するものとする。

(細則)

第15条 本会に必要な細則は、別に定める。

## 附 則

- (1) この規約は、平成15年1月10日より施行する。
- (2) 平成16年1月9日第6条(2)を改正。
- (3) 平成24年1月12日 第2条、第3条、第6条(2)の一部を改正。
- (4) 平成25年1月10日 第9条を改定。



## 5-2 参加者名簿

No.	支 部	学 校	氏 名	参加	備 考
1	石狩	札幌北	高橋 一矢	◎	副部会長
2	石狩	札幌北	奥村 稔	◎	ファシリテータ
3	石狩	札幌北	前川 繁信	◎	
4	石狩	札幌厚別	鈴木 崇令	◎	
5	石狩	札幌あすかぜ	川村 雅人		
6	石狩	札幌稲雲	堀井 圭司	◎	
7	石狩	札幌英藍	鶴間 伸一	◎	運営
8	石狩	札幌英藍	梅田 充	◎	運営
9	石狩	北広島西	梅田 優子	○	
10	石狩	石狩翔陽	木村 久	◎	
11	石狩	札幌旭丘	高瀬 敏樹	◎	
12	石狩	札幌旭丘	指田 あすか	◎	
13	石狩	札幌旭丘	溝口 義一	◎	
14	石狩	札幌藻岩	高木 昭信		
15	石狩	札幌清田	後藤 信		
16	石狩	札幌新川	杉本 式史	◎	事務局
17	石狩	札幌新川	佐藤 昌弘	◎	副部会長
18	石狩	札幌大通	佐々木 大輔	◎	
19	石狩	札幌大通	天野 将寿	◎	
20	石狩	札幌開成中等教育	澤谷 明憲		
21	石狩	北海	岡部 征和		
22	石狩	札幌大谷	今井 豊章		
23	石狩	札幌北斗	古澤 正三	◎	運営
24	石狩	札幌北斗	石井 翼	◎	
25	石狩	札幌山の手	長谷川 秀博		
26	石狩	札幌龍谷学園	竹本 正慶	◎	
27	道南	福島商業	岩谷 義久	◎	
28	後志	小樽潮陵	佐々木 寛		
29	後志	小樽桜陽	林 誠	◎	
30	後志	小樽桜陽	石谷 正	○	
31	後志	小樽水産	草間 由紀子	◎	
32	後志	倶知安	津端 公彦	◎	運営
33	空知	滝川	池田 弘樹	◎	運営
34	道北	旭川北	帰山 悟		
35	道北	天売	富樫 霞九磨		
36	道北	旭川藤女子	鎌田 亮樹	◎	運営
37	ホ-ツク	湧別	進藤 真由美		
38	釧根	釧路湖陵	岡田 俊哉		
39	釧根	釧路江南	小湊 秀子	◎	
40	釧根	釧路商業	宮川 尊充	◎	
41	釧根	武修館	相蘇 孝哉		
42	十勝	帯広緑陽	前田 健太郎	◎	運営
43	十勝	鹿追	金谷 梅太郎	○	
44	日胆	平取	毛内 顯史	◎	部会長
45	日胆	日高	古屋 順一	◎	運営

### 5-3 懇親会のご案内

## 高教研研究集会情報部会「大懇親会」

今年も恒例の大懇親会を開催致します。ぜひ、奮ってご参加ください。

日時 平成28年1月8日(金)18:00～20:00

会費 3,500円(飲み放題・税込)

場所 うおや一丁札幌駅店  
札幌市北区北6条西1丁目(JR高架下)  
電話 (011)-232-0022



【全体の構成について】

質問 1 今年度は基調講演を実施せず、全体をワークショップ形式にしましたが、いかがでしたか。  
( ) 不満 ( ) やや不満 ( ) 特に何も ( ) やや満足 ( ) 満足

質問 2 基調講演の実施についてご意見があればお書きください

【ワークショップ】

質問 3 テーマの設定についてはいかがでしたか。  
( ) 不満 ( ) やや不満 ( ) 特に何も ( ) やや満足 ( ) 満足

質問 4 内容は、あなたの期待にできていましたか。  
( ) 不満 ( ) やや不満 ( ) 特に何も ( ) やや満足 ( ) 満足

質問 5 内容の難易は、あなたにとって適当でしたか。  
( ) 難しい ( ) やや難しい ( ) 適当 ( ) やや簡単 ( ) 簡単

質問 6 今回のワークショップは今後の授業や、あなた自身の研修に役立ちそうですか（複数回答可）  
( ) まったく見通しが付かない。  
( ) 漠然としていて、まだ具体的なイメージが湧かない。  
( ) 何となく見えそう。  
( ) 方向性が見えてきた気がする。  
( ) 具体的に何かを試してみようと思う。

質問 7 今回のワークショップについての感想・ご意見をお聞かせください

質問 8 ワorkshopの内容について、どのようなものを期待しますか（複数回答可）  
( ) 教科書にある内容を、授業としてどのように扱うか。  
( ) 新しいオリジナルの授業を構想するためのもの。  
( ) 先進的な技術を易しく解きほぐすもの。  
( ) 情報社会を積極的に理解するためのもの。  
( ) アクティブ・ラーニングに関するもの。  
( ) 授業内容の改善につながる評価の考え方。

質問 9 ワorkshopの内容に上記以外で期待するものがあればお書きください

質問10 その他、ワークショップについてお気づきの点がありましたら、ご記入ください。

【企業展示】

質問11 企業展示について、感想等お気づきの点がありましたら、ご記入ください。

【総会】

質問12 総会についてお気づきの点がありましたら、ご記入ください。

【その他】

質問13 全体を通してお気づきの点、ご意見等がありましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。